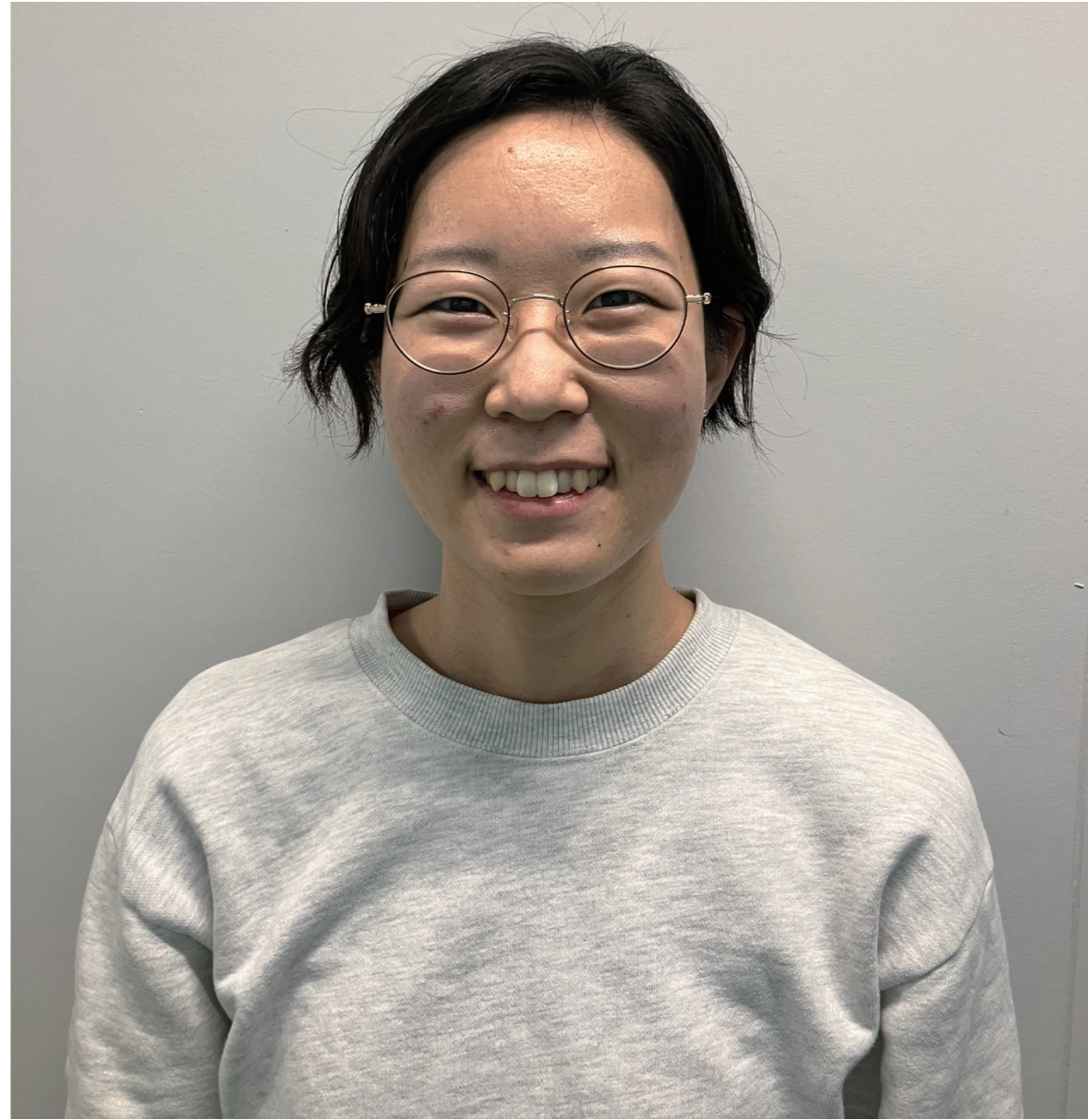


チム九

印刷を支え加工を活かす

無線綴じ部門 荒木 楓美

「本をよく読み、紙ものが好きで、製本に興味があった」と話す荒木楓美さんの前職はイラストレーター。そんな荒木さんが2023年6月1日の入社以降、「仕事が楽しい」と断言できるほど充実している日々を振り返ってもらいました。



「紙ものが好きで、製本に関心があった」とのこと、実際に入社して率直にどう感じていますか。

面接で工場内を見学したとき、正直、何がどうなっているのかはさっぱりわかりませんでした。が、ワクワクした気持ちでした。「私も機械に触ってみたい。ものづくりがしたいな」と。そうして実際に入社して機械に触れてみたら楽しくて、今は1台の機械を任されてもつと楽しくて。しかも、周囲の皆さんが親切で、質問にも丁寧に答えてくれるので、気兼ねなく質問して安心して業務に取り組んでいます。人間関係の悩みも一切なくて快適そのもの。働きやすい環境だと実感します。

「これまで経験した業務を教えてください。」

入社してから2024年7月まで無線綴じの部門に所属し、そこからマルチ部門に配属が変わって現在に至ります。無線綴じでは折りをメインに行っていました。カタログや問題集など無線綴じする本の中身を折る仕事です。マルチはカレンダーの部門。私は

卓上カレンダーの台紙折りや穴開けを担当していて、1時間あたり5000枚、1日で3万枚も穴を開けることも。大まかには、給紙の機械・紙を折る機械・紙をプレスする機械・穴を開ける機械の4台をセットして、順番に動かして卓上カレンダーを仕上げます。今、その4つの機械をつなげてセットして立ち上げるところから携われるように頑張っているところです。

「業務上、大変だったことはありますか。」

無線綴じとマルチの両方で「定数不足の恐れ」を経験しました。無線綴じでは、折りがずれたり、折りの機械が止まったりして不具合品が多く、必要な製本の定数に満たないかもしれないという事態に冷や



冷や。「2〜3枚がくっついて給紙されないよう、紙の束を一度さばいてから給紙台にセット」。「同じA5の紙でも、会社ごとに設定は違う。その調整でねじやつまみを回すたびに、微妙なずれが生まれて、折りのずれにつながるから、作業前は慎重に調整し直す」。これら2つの先輩からのアドバイスを実践してからは感覚をつかんで、折りの機械の不具合も直せるようになりました。マルチ部門では穴を開ける機械に異常時の停止センサーがないために、ちよつと目を離した隙に一気に十何枚もの不良品が出て、定数不足の懸念が出ることも。そこで、機械異常を素早く察知して停止できるように、常に機械音に耳を傾けながら作業しています。「今、音が1拍飛んだ」「キーキーとローラーが異音を出した」というときはすかさず機械をストップ。そうして不良品を出さないよう努めています。

「仕事で大切にしている心がまえありますか？」

「心に余裕をもつこと」です。もともと「ピリピリしていても良いことはない」「考えても仕方ないことは考えない」という考えをもって

「仕事にどういったやりがいを感じていますか。」

以前手がけた書籍が書店に並ぶ姿を見たときは、「これ、やったやつ！」と喜びもひとしお。大きなモチベーションになりました。形に残る仕事ができることが一番のやりがいです。また業務を通じて完成に至るまでの過程を知れることに楽しさを感じています。

「最後に、今後の目標を教えてください。」

現在任されている機械について、誰かに教えられるくらい深く理解していきたいと思っています。機械に愛着をもって慣れ親しみながら、ベテランの先輩方のように「今日は機械のこの部分の調子が少し悪い



な」とか「今日の湿度で紙がやや伸びているかも」とかちよつとした違いも感じとれるようになったらなと思います。一つひとつの仕事丁寧な手がけながら、経験を積み重ねていきます。

「いつでも誰かを助けられるように」と考える姿、仕事を楽しみながら着実に成長する姿、本当に頼もしい限りです。荒木さんのますますの活躍ぶり、今後も目を離せません！

企業情報

- ◆ 創 立 年：1983年1月
- ※ 創 業：1963年
- ◆ 年 商：17.6億円
- ◆ 従業員数：200人

幹部たちの

ビジョンとパッション

第9弾

成長を続ける旭紙工の魅力を、幹部・経営陣からお伺いするこの企画も第9弾となりました！
前向きに、作業環境や品質改善のために知識を共有し、お互いを支え合いながら目標に向かう姿をご紹介します。
田中さんのビジョンとパッションを感じてみてはいかがでしょうか？

旭紙工の
ここがすごい！

強み

先見性と協力体制が
生み出す強い
チームワーク

社長をはじめとする先見性を持った上層部のもと、全員が新しいことに前向きに取り組む力を持っているところです。
辛くて重たい仕事も嫌な顔をせずに行い、困っていることがあっても強い仲間意識で、互いに助け合う姿勢が強みに感じます。残業や休日出勤に対しても、協力し合える環境が整っていると感じます。



今後長期的に成し遂げたいこと

スキル向上と
知識共有による
効率化の追求

機械が停止している時間を減らすということを成し遂げたいと思っております。そのためには、セットオペレーター作業員、全員のスキルを向上させる必要があるため、自分の持っている知識を全員に共有できるよう努めてまいります。

田中さんの
考えとは？

工場本部 瓜破工場
中継部門 課長
たなか よしお
田中 賢彦さん



信念

あらゆる状況を
前向きに捉える
姿勢

どのような状態の場合でも、前向きに捉えるようにしています。

仕事をする上で大切にしている考え方

不良品防止と
作業環境への
配慮

不良品を流出させないように、機械の状態を常に良好に保ち、作業員に過度な負担がかからないように配慮することを心がけています。

